

4 質の高い教育をみんなに



コロナ禍における大人数授業を受講する大学生の安心感と学修満足度の向上を目指したハイリミテッド型授業の開発と実践

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

キーワード：大人数授業、ハイリミテッド型授業、インストラクショナルデザイン、ADDIEモデル、コロナ禍

○ 背景と解決課題

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、大学の授業形態は大きく変化し、情報化が一気に加速しました。未曾有の災禍の中、教育現場では持続発展的な学びを日々模索しています。

このような背景のもと、多くの学生が参加する大人数授業は、集団感染の予防をはじめ、様々な事情や価値観を持つ大学生が納得して学修できる機会・環境の確保や、教員との双方向コミュニケーションの実現など課題が山積しています。

文部科学省：令和3年度の大学等における授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策等に係る留意事項について（2021）



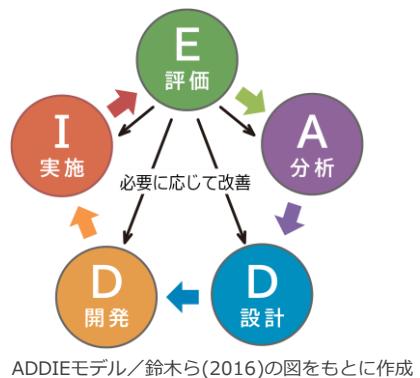
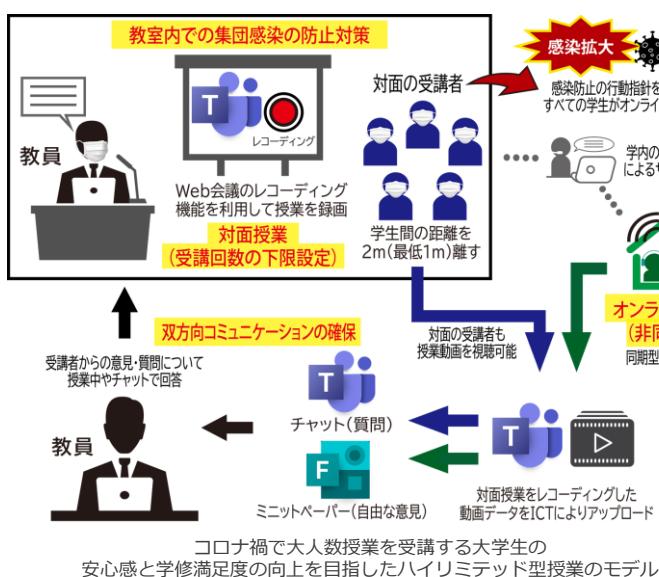
○ 活動の目的

様々な専門領域の研究者で構成される本研究チームは、コロナ禍における大人数授業を再考し、大学生の安心感と学修満足度の向上を目的とした「ハイリミテッド型授業」を開発することにより、持続的かつ実現可能な教育を目指しています。

○ 方法(設計・開発)

教育活動を設計・開発する上で、インストラクショナルデザインの考え方に基づくことが重要となります。システム的アプローチの「ADDIEモデル」によりハイリミテッド型授業をデザインしました。

鈴木克明ら：インストラクショナルデザインの道具箱101；北大路書房（2016）



○ 結果と考察, 今後の展望

ハイリミテッド型授業に対する授業評価アンケートの結果、安全性と学修満足性、双方向性に関して有効性が示唆されました。一方、対面参加の回数が少ない受講者の理解度が低下する傾向や、対面参加の管理が改善点であることが明らかになりました。

今後はハイリミテッド型授業を改善することで、コロナ禍における教育の発展に寄与することが期待されます。



- 本研究は「令和3年度常葉大学授業改善等の研究助成」の採択を受けたものです。
- 電子情報通信学会HCS「コロナ禍における大人数授業のためのハイリミテッド型授業のデザイン（Oct. 2021）」を参照
- 第84回情報処理学会全国大会「大人数授業のためのハイリミテッド型授業のデザインとアンケート調査の考察（Mar. 2022）」を参照
- 発表予定：第36回人工知能学会全国大会（Jun. 14～17, 2022予定），電子情報通信学会和文論文誌Dに投稿中（Mar. 21, 2022時点）

